

1. 略歴

- 平成4年3月 京都大学文学部文学科卒業（文学士）
平成4年4月 京都大学大学院文学研究科修士課程梵語学梵文学専攻入学
平成6年3月 京都大学大学院文学研究科修士課程梵語学梵文学専攻修了（文学修士）
平成6年4月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程梵語学梵文学専攻進学
平成12年3月 京都大学大学院文学研究科梵語学梵文学専攻博士後期課程中途退学
平成8年9月 ペンシルバニア大学文理大学院言語学科 Ph.D.課程入学
平成12年12月 ペンシルバニア大学文理大学院言語学科 Ph.D.課程卒業
平成12年4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 COE 非常勤研究員（平成13年3月まで）
平成13年4月 白鷗大学経営学部専任講師（平成17年3月まで）
平成17年4月 白鷗大学経営学部助教授（平成19年3月まで）
平成19年4月 白鷗大学教育学部准教授（平成22年3月まで）
平成22年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授（現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

歴史言語学、音韻論、インド・アーリア語、ドラヴィダ語

b 研究課題

インド・アーリア語、とくにサンスクリットの音韻論と、ドラヴィダ語族言語のフィールドワーク

c 主要業績

(1) 著書

単著、Masato Kobayashi, *Historical Phonology of Old Indo-Aryan Consonants*. Tokyo: ILCAA, 2004.11

単著、Masato Kobayashi, *Texts and Grammar of Malto*, Vizianagaram: Kotoba Books, 2012.3

(2) 論文

小林正人、「クルフ語・マルト語の過去語幹」、『言語研究』、140、23-49頁、2011.9

Masato Kobayashi, Pāṇini's Phonological Rules and Vedic: Aṣṭādhyāyī 8.2, *Journal of Indological Studies* 18, 1
～21頁, 2006

Masato Kobayashi, Syllable Rimes in Old Indo-Aryan and Dravidian, 『アジア・アフリカ言語文化研究』62号,
91～106頁、2001

(3) 書評

Reiner Lipp, *Die indogermanischen und einzelsprachlichen Palatale im Indoiranischen* (Heidelberg: Winter,
2009)、Masato Kobayashi, *Indo-Iranian Journal* 55、287-296頁、2012

Martin Kuemmel, *Konsonantenwandel*, Ludwig Reichert、Masato Kobayashi, *Kratylos* 55、45-54頁、2010

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本言語学会 大会運営委員 2008年～2010年、常任委員 2012～。